

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171100488		
法人名	グループホーム やすらぎ有限会社		
事業所名	グループホーム やすらぎ		
所在地	埼玉県北葛飾郡杉戸町清地6-2-7		
自己評価作成日	平成22年5月1日	評価結果市町村受理日	平成22年7月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1171100488&amp;SCD=320">http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1171100488&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成22年5月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、楽しく生活しております。おしゃべりしたり、お天気のいい日は皆で散歩へ行ったり、開放的でのびのびと安心して生活できるように援助しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

バス停から数分の住宅地にある二階建ての民家を改修したホームで、隣には同法人の運営する失語症の方と一般の高齢者の方に対応しているデイサービスがあり、訪問時には入居者の方が玄関脇の私道に腰を掛け、デイサービスの方の送迎を見て居られた。管理者は地元の方で、開設して10年が経過し、自治会の活動等も入居者と職員と一緒にいき、地域に定着したホームになっている。一階にあるリビングは何処にでもある家庭的な雰囲気があり、入居者は自然にリビングに集まってくる。職員は心身の活性化を図る為、皆で体操をしたり、散歩に出掛ける中で関わりを深め、冗談も言える温かい関係が築かれ、入居者の表情が豊かである。玄関は施錠せず、入居者は自由に出入りしている。食事についても入居者と職員で食材の調達から一緒に行き、季節感あるものを食し、お代わりをしている入居者もいる。職員も入居者との関わりを楽しんでいる事が感じられるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
					実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	居間の壁面に理念が掲示してあり、職員が理念について把握するようにしている。	町の要請もあり、今までの理念に加えて地域とのつながりを大切にするホームという理念とし、その理念を居間に掲示してある。新任職員の指導時には必ずその意味を伝え、運営推進会議でも伝えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	共有場所の草取りや掃除を職員が利用者と一緒にやっているほか、自治会にも加入してゴミ当番も担っている。散歩時、近所の人に合った場合挨拶をしたり、お話ししたりして交流するようにしている。	管理者が自治会に加入し、ホーム前のゴミ当番を入居者と一緒に行っている。私道の草取り等も行い、近所の方との日常的な交流が自然にとれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、実践してはおりませんが、これから専門の研修を受け、地域貢献したいと考えています			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は定期的開催され、利用者の近況、活動報告をし、感染症、認知症、他について話し合っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、家族はローテーションを組み交代で出席している。入居者、職員の状況報告、感染症や認知症についての情報提供等、具体的な内容について話し合い、ケアに生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場主催の会議には、必ず参加している 他、情報提供、相談などしばしば連絡を取り合い連携を図っている。	町で開催するグループホームの会議には必ず参加している。又、昨年からは開始された介護相談員を受入れているが、受入れる内容についてはホームとしても意味のあるものにしていきたいと考えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束の具体的な行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会に参加し、ホーム内研修で共有している。玄関の施錠は入居者に与える影響が大きいと考え行っていない。入居者は自由に出入りし、職員が見守っている。入居当初は他の部屋に入ってしまう方も、日にちがたれば落ち着いて来るので、出入りの制限はしない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待防止対応研修会などに出席して虐待防止法なども学んでいる、当ホームでは、虐待は行われていない。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について一様学んではいるが、活用できるような事例がない、そういう機会がありましたら活用したいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等の不安や疑問点を、十分な説明を行い、理解、納得してもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などを利用して家族の話をよく聞くように努力している。今のところ苦情はない。	面会時に家族の意見を聞き、具体的な事柄(例えば下痢の続く方の下剤使用についての説明等)や、日々の様子や身体的な状況を管理者・計画作成担当者が聞き、職員に伝え、ケアに生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどを行い職員の意見や提案を聞くようにしている。	カンファレンスは週数回行い、入居者の具体的な対応について話合っている。ミーティングでは接遇やケア方法の検討を行い、職員が意見を出し易いように努め、出来る事出来ない事を伝える機会としているが、ミーティングの開催は年2回程度である。	日常の具体的なケアについての話し合いは行われているが、ホーム運営についての提案等を行う機会も定期的に関き、運営に反映される事が期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、働きやすく、やりがいのあつる職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間で自主研修を行っている。研修に参加した職員は、習得したものを他の職員に伝えるようにしている。共通したケアができるよう、カンファレンスをまめに利用し利用者様へのよりよいケアに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役場主催の交流会は参加している。一部の事業所との交流もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族だけでなく本人にも来てもらい、部屋やホーム内を案内して他の利用者と一緒に過ごし、納得してから入居してもらっている。また入居後なれるまでは、夜間の見守りを頻繁に行い、レクリエーションには無理強せず自然に参加できるように配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安な事、要望等、傾聴しケアプランを製作し、不安が取り除けるようケアしている、何かあれば連絡し家族との信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と、家族が必要としている、サービスができるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生経験豊富な利用者の方々に教えを請う事が多く、料理の仕方、工夫の仕方、昔から伝えられている事、なるほどと、感心させられる事が多い、職員も、利用者も一緒に楽しみながら、毎日を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	密に連絡取り合いながら共に本人を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家や親戚、友達など関係が途切れないよう、家族と協力し合って支援したいと思っている。	近隣の美容室の方と馴染みになり、店の方が送迎して利用している方もいる。入居者が昔の知合いに会いたいと話している場合は、会える機会が持てるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人が孤立することなく利用者同士がうまく関わり合えるよう、職員が、配慮もしているが、自然に利用者同士でお話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて、相談や支援に努めるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが言いたいことが言えるような雰囲気作りを努め本人の希望は、できるだけ実現できるようにしている。	一人ひとりの食べたいものや欲しい物を聞き、買物に出掛けている。一人ひとりが自分の気持ちを言える雰囲気が出来ている。昼食時もそれぞれのペースで穏やかに話しをしながら食事をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人とアセスメントを十分に行い、一人ひとりの生活歴、生活環境、これまでの暮らしの把握をするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の変化の状況など把握し、介護に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態、生活歴、本人の希望、家族の意向を考慮して、家族、本人、職員とカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	初回面接で十分に話し合いを行い、本人、家族から入居までの状況を把握し、今後の希望を聞き取るようにしている。介護計画は日々の生活の中で状況を確認し、カンファレンスで検討し、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録、を毎日行い職員は、目を通すようにし、随時カンファレンスを行い情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスを随時行い一人ひとりに柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中に溶け込み、散歩時の挨拶を交わしたりお話ししたり、買い物に行、った時など、一人ひとりに対応してくれたりと揚力的である。		
30	(11)	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診して頂いている利用者もいますが受診は、本人、及び家族等の希望を大切に、適切な医療を受けられるように支援している。	1ヶ月に1~2回提携医の往診がある。家族の希望で入居前のかかりつけ医を受診する方もいるが、その場合は家族対応をお願いしている。どうしても家族が対応出来ない場合は、受診支援をする事もある。受診状況は家族と連絡を取合うようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日常の変化や、情報、気付きを、職場内の看護職に伝え、相談し適切な、受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して入院できるよう入院の際は、利用者の状況など報告し、退院の際は、看護サマリーなどの情報を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、対象者いないが、今後医療と連携しながら、ターミナルケアを行っていききたいと思う。	ターミナルケアについては、今後支援して行く事を考えている。これまでに実際の経験はないが、職員にもホームの考え方を伝え、理解を得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急研修に参加し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	散歩などで全員、外に出る習慣をつけているので、全職員誘導することはできる。避難訓練は、年2回おこなっているが、火事など起きた時、冷静に避難させる事が出来るか解らない。	年2回避難訓練を行い、夜間を想定した訓練も午後昼寝時に行った。管理者の自宅が近く、すぐ駆けつける事が出来る。職員が駆けつける時間についても確認し、駆けつける事になっている。毎回ではないが、訓練には近所の方の協力もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者は、言葉遣いなどの職員教育の徹底に努め、不用意な言動がないよう尊厳をまもっている。	管理者は、言葉遣いについて特に配慮するよう努めている。トイレの誘導時等、具体的な場面での言葉の掛け方や対応を大切にすることを心掛けて伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、自分が言いたい事を言える雰囲気作りに努め、自分で決められるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何でも話し合える雰囲気作りに努め個人のペースを大切に、和やかに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切りや、口腔ケア、入浴、着脱等身だしなみやおしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の簡単な手伝い、配膳など利用者が楽しみながら一緒にやっている。	朝食、夕食の食材は業者から届けられるが、献立はスタッフが考え、時々入居者と食材を買いに出掛ける。食材の下ごしらえを入居者は積極的に行っている。皆食欲があり、ご飯のお代わりをする方も多い。職員は夕食だけ一緒に食べている。	現在、夕食は職員と一緒に食べているが、入居者の状況から、他の食事の時も職員と一緒にテーブルを囲み、共により楽しめる雰囲気を作る事が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った、栄養バランス、食べる量、水分量が取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今のところ全委員食欲あります。ただ、透析患者の利用者には、透析食を援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合った支援をしている。	入居時に失禁が多い方も、排泄パターンを把握して対応する事で、自分で出来るようになってきている。現在リハビリパンツを使用している方はいるが、皆ほぼ自立している。	
44		便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養を考えたの食事に気をつけ水分補給できるように援助している。体操、散歩等行い、できるだけ体を動かしてもらうようにしているので、便秘予防にも役立っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合により日中入浴する事が多い。	週2~3回(夏期3日 冬期2日)の入浴である。入りたがらない方は、体調が悪くなければタイミングを見て声掛けし、入浴して頂いている。毎日の入浴を希望される場合も、決まった曜日をお願いしている。	気候や個々の状況、意向に合わせ、臨機応変に、柔軟に対応し、より入浴を楽しむ事の出来る支援が期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今のところ騒ぐ人もおらず静かに気持ちよさそうに安心して眠れている、今の状態が続けられるよう支援したいと思っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の目的や副作用、用法、用量を理解しており、医師との連携を取り、職員全体で把握し服薬援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、お茶の用意、洗濯物たたみ、縫い物等の利用者の得意なことや好きな事を楽しみながら自然に行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の好い日は、散歩に出かけ、たまに外食、買い物、美容院へ出かけている、また。家族とも自由に出かけられるよう支援している。	散歩、買物等で、毎日近くのコンビニや公園に出掛けている。離れたスーパーへ車で出掛ける事もある。入居者だけで出掛けたい希望がある方については、状況を把握し、時間を決めて出掛けて頂いている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人は、持っていないが、買い物に行く時は、こちらでお金を渡している、他、家族と一緒に外出した際、買い物したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族により、電話、手紙のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改修して設立したので、家庭的な雰囲気を感じられる。季節を感じるものを飾るなど、居心地の良い空間づくりの工夫をしている。	窓の外は隣家が見え、リビングの窓際には何人かで腰を掛けて話ができるスペースがあり、落ち着いて過ごせる雰囲気がある。季節の花や散歩の時に摘んで来た花をリビングに飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がリビングに集まり、和やかに過ごしている。また一人になれる時間も、設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の思い出の物もあり、持ち物の整理がしやすいよう工夫、配慮されている。	居室は一人ひとりの状態や意向に合わせ、寝具はベッド、又は、布団にしている。仏壇、写真等思い思いの物を持って来て頂いている。入居者が自分で身の回りの整理がしやすいように、家具の配置等を考慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべくできる範囲で自分で安全に行動できるように、環境を整えている。		